

『政研21』活発に開催される

政策研究・フォーラム21世紀(略称・政研21)は、21世紀に相応しい新しい日本を築く為に、志を同じくする者が政治理念・政策を調査並びに研鑽し、提言を行うことを目的とし、2002年1月に発足した。

毎月第4月曜日16時開催を原則として、開催日時を定例化し、研究課題によっては、地方議員の参加を認めている。

本年4月の定例研究会開催で第17回目を迎え、毎月欠かさことなく熱心な勉強会となっている。

—第15回定例会開催—

2月17日、「政研21」(田中慶秋幹事長)は、衆議院議員会館において定例会を開催。国会議員を中心に約40名が参加した。

講師には、森本敏氏(拓殖大学国際開発学部教授)が招かれ、「アメリカのイラク攻撃の行方」をテーマに1時間半にわたって講演が行われた。

講演では、今現在の緊迫するイラク情勢をめぐり、アメリカの対応、国連の動き、わが国のスタンス等について、森本氏の豊富なキャリア、専門知識により、現状の分析を行うとともに、わが国がとるべき道を示された。



「政研21」(中央が森本教授)

—第16回定例会開催—

3月の定例会は、3月24日、衆議院議員会館において2部構成で開催。約60名が参加した。

1部では、高村壽一氏(武蔵野女子大学教授)に「小泉内閣の失政と日本経済の現状について」と題して講演を頂いた。高村教授は、「小泉政権は行き詰っている。戦後日本は、平等で豊かな社会をめざしてきたが、目標を達成し、

一種の虚脱状態にある。危機を打開するには大胆な発想が必要だ。従来の供給サイドの話だけではなく、新しい需要を掘り起こすことや社会ニーズに合った社会投資ファンドの創設などが重要。

構造改革の再生プログラムを推進するとともに、改革に伴う痛みを最小限とする社会政策が求められる」と述べた。

2部では、小沢一郎氏(自由党党首)を招き、政権構想と選挙協力について、の貴重なお話を伺った。小沢党首は、「現在は冷戦崩壊後の新世界秩序形成の途上にある。日本は海図も持たず、目的地もわからず、ただ漂っている。本格的な嵐がくる前に、自民党政権という泥船に変わる新しい船をつくらなければならない」と野党第一党である民主党に対する期待感を表明した。

—第17回定例会開催—

日時 4月15日(火)17:00
場所 衆議院第1議員会館・第4会議室
テーマ 「有事法関連の諸問題について」
講師 駒澤大学法学部教授
防衛法学会理事長 西修氏

新年度本部役員決まる!!

先に開催された民社協会年次総会において、本部役員が満場一致で決定された。

大半が留任したが、伊藤郁男、梅澤昇平、佐分利一昭、和田一仁の各理事が顧問に就任。新たに加賀谷健、茂木勝彦、林幸雄の3氏が理事に選ばれた。

選任された新役員は次の通り

会長	米澤 隆	(衆議院議員)
理事長	中野 寛成	(衆議院議員)
理事長代行	玉置 一弥	(衆議院議員)
副理事長	中井 洽	(衆議院議員)
	今泉 昭	(参議院議員)
	名取 憲彦	(東京ブロック)
	富田 健治	(近畿ブロック)
	鎌滝 博雄	(友愛連絡会)
専務理事	田中 慶秋	(衆議院議員)